

第1章

「鉄道ビジネス英語」について

① 「鉄道ビジネス英語」に特化した学習を

Point

- ① 「鉄道ビジネス英語」とは、「海外での鉄道ビジネスのための英語」。
- ② 鉄道ビジネス英語を学ぶためには、それに特化した学習が必要。

「ビジネス英語」という言葉はよく聞かれるが、「鉄道ビジネス英語」を冠する本は、おそらく本書が初めてだろう。本書での「鉄道ビジネス英語」とは、「海外での鉄道ビジネスのための英語」をいう。つまり、海外で鉄道プロジェクトを進めるための打合せや交渉を行うために必要な英語である。これは、鉄道事業者が鉄道を利用されるお客さまにご案内を行うための英語とは語彙も使う表現も異なるものである。

近年、海外の鉄道プロジェクトへの日本企業の進出が進んでいる。JR 東日本グループも、さまざまな海外の鉄道プロジェクトに参画してきた。

本書は、成長が見込まれる世界の鉄道マーケットに日本がさらに進出できるよう、日本の鉄道関係者の「鉄道ビジネス英語」の能力底上げに微力ながら貢献することを目指して



図 1-1 JR 東日本からインドネシア通勤鉄道会社に譲渡された車両（左）とミャンマー国鉄に譲渡された車両（右）

いる。そのために、「鉄道ビジネス英語」に関する知識やノウハウを紹介することで、その学習をサポートする。具体的には、鉄道ビジネスに不可欠な鉄道関係の技術用語や文章表現を含む英語を紹介する。たとえば、テレビやラジオのビジネス英会話やオンライン英会話教室で、「列車の交換¹⁾待ち」(第5章3-2(1))や、「き電²⁾を停止する区間が支障しないようにする」(本章4-3および第5章1-4)といったことを英語で表現する機会はないだろう。こうしたことを英語でどう表現すればいいかが、本書のテーマである。また、「鉄道ビジネス英語」の学習法についても紹介する。

もちろん、海外ビジネスでは、カウンターパートとのタフな交渉もつきものだ。交渉のための一般的なビジネス英語のスキルも必要になる。通訳を介して交渉を行うこともあるだろう。通訳の誤訳はもちろん、微妙な訳し方のニュアンスの問題によって、誤解や行き違いが生じることもあるだろう。このように、鉄道ビジネスに特化した知識やノウハウ以外に、英語を使って仕事をする上で注意すべきさまざまなノウハウもカバーしている。

② 書く英語を勉強する

Point

- ① 海外ビジネスでは、英文を書くことが重要。
- ② 鉄道の専門家にふさわしい英文が書けなければならない。

2-1 海外ビジネスは書く英語

海外ビジネスの現場では英文を書くことが相対的に重要となる。ビジネスは、英語文書のやりとりによって進められるからである。

覚書、報告書、入札や契約に関する文書などのやり取りは基本的に英語で進められるが、こちらの利害に関わる重要事項について過不足なく表現していなければならない。後から「ここに書いてあるのは、そういう意味ではない。打合せの席では、こういうやりとりで双方了解したはずだ。」などと言ってもらちが明かない。口で言った話は残らず、書かれたものだけが残る。後で内容に疑義が生じないよう、明確にこちらの意図する内容を表現しておかなければならない。特に契約に関する文書では、不当な義務を負わされたり、逆

1) 単線区間で列車が行き違うこと。

2) 電気鉄道で列車が運行するための電力を供給すること。

に正当な要求ができなくなったりしないよう、英語の文章表現にも気を遣わなければならない。

打合せや交渉も、すべて口頭ですますということはまずないだろう。海外ビジネスでも、パワーポイントを使ったプレゼンテーションはよく行われる。そこに書かれている英語の見出しや文章の用語や表現が間違っていたり誤解を招くものだったりすると、意思疎通に支障をきたす。せっかくのすばらしい提案も、正しく評価されないかもしれない。

また、打合せや交渉は、その場で相手を説得し、理解が得られれば終わりではない。事後すみやかに協議内容や合意結果について、その都度文書で確認することが必要だ。英語で合意メモや覚書を作成し、双方で一つ一つ確認してサインをする。契約書など公式の文書はもちろんだが、打合せの合意メモのようなものも、手を抜かず注意して対処すべきだ。

Zoom はもちろん電子メールもないころは、海外出張するほどでもない用事は国際電話で打合せすることもあった。しかし、今日、海外出張の事前相談や事後フォローなどは、電子メールで行うことが多い。つまり、海外ビジネスでは電子メールを英語で正しく書くことが必須である。



図 1-2 国際会議での JR 東日本社員のプレゼンテーション

2-2 鉄道の専門家らしい英語を書く

さらに、英語での文章表現の適切性（正しく書かれていること）が信頼に関わる面もある。ビジネスの現場では一般人・素人ではなく専門家同士だ。海外鉄道ビジネスも同様で、専門家が鉄道分野独特の用語を駆使してやりとりする場となる。たとえば、最も基本的な用語である「車両」という言葉も、世界の鉄道関係業界では“car”や“vehicle”のほかに“rolling stock”という表現があって、使い方に区別がある。「電車」は“electric car”ということはありません、 “EMU” (“electric multiple unit” の略) が一般に使われる。“rolling stock”や“EMU”は日常生活の中ではまず使われることがないが、海外鉄道ビジネスではこのような表現を状況に応じて正しく使って書いたり話したりすることが必要になる（第2章7）。

世界を舞台として活躍する鉄道の専門家は、このような鉄道分野で慣用的に使われる語彙や表現を使いこなしており、逆にそれができないと、専門家としての資質も問われかねない。鉄道に関する技術面の知識・経験が豊かな専門家であっても、英語での文章表現が

適切にできないことで能力が疑われてしまうこともありうる。専門家にはそれにふさわしい文章作成能力が期待され、期待に添えないと先方の信頼を失うこともある。

現代では、英会話に関するプログラムは豊富にある。Zoomなどのアプリケーションを活用して、海外のネイティブスピーカーの講師とオンラインで会話を練習するプログラムもある。そうしたプログラムで仕事と関係のない話をするのは、臆せず英語で話す度胸をつける点ではプラスにはなる。しかし、それだけではビジネス英語のスキルを磨くには不十分だ。

鉄道の海外ビジネスに関わるためには、鉄道に関する専門的な内容を英語で書くトレーニングが必要だ。本書は、書く英語に重点を置いて知識やノウハウを伝えることで、書くことに関する教育の必要性と不足とのギャップを埋めようとしている。もちろん、書くために必要な語彙や文章表現を覚えておけば、打合せや交渉の場でも、それを使って話すことによって効果的にこちらの考えを伝えることができる。専門的な用語や表現と基本的な構文を知っていれば、なんとか話して通じるようになる。したがって、書く能力の向上は、話す能力の向上にも直結する。

③ 国際規格と鉄道ビジネス英語

Point

- ① 国際規格の鉄道用語の英語表現は知っておくことが重要。国際規格を読むことで、鉄道ビジネス英語の勉強にもなる。
- ② 国際規格の作成に参加する際には、国際規格の英語表現に関する知識を活用し、日本に有利な交渉となるような英語表現をすることが必要。

3-1 国際規格の鉄道用語を知る

鉄道の国際規格は、ISO (International Organization for Standardization : 国際標準化機構)、IEC (International Electrotechnical Commission : 国際電気標準会議) などの団体で開発³⁾され、広く世界的に通用する。(国際規格の入手方法については、第4章1-3を参照。) その中ではさまざまな鉄道に関する用語が、定義されたり、また、定

3) 規格を「作成」することを「開発」という。

義されなくても統一的な表現として用いられたりする。世界の鉄道業界で作成されるさまざまな技術文書や、国際会議での口頭または文書でのやりとりでも、国際規格で定義された用語や統一的に用いられる用語が使われる。

たとえば、「鉄道」というごく基本的な用語にしても、“railway”と“railroad”の二種類の英語表現があり、どちらも間違いではない。しかし、世界の鉄道関係者の間では、もっぱら“railway”が使われる。“railway”はイギリス式英語、“railroad”はアメリカ式英語である。“railway”が使われるのは、イギリス式の方が世界的に広く通用するからでもあるだろうが、「鉄道」の国際規格での表現が“railway”に統一されていることが大きな理由と考えられる（第2章1）。

日本では、新幹線に対する在来線を英語で“conventional line”と呼んでいる。しかし、この表現が世界の鉄道関係者に通用するかというと、必ずしもそうではない。なぜなら、特に欧州では、“conventional”は磁気浮上式鉄道などではない、鉄の車輪・レールを用いる「従来型」の鉄道システムという考え方があるからだ。実際に、最新の欧州の規格にも、この考え方が取り入れられている（第2章5）。この規格を前提とする欧州の鉄道関係者にとっては、“conventional”は「新幹線以外の鉄道」ではない。つまり、欧州の鉄道関係者に「在来線」のつもりで“conventional”という表現を使うと、話が通じない場合がある。

技術的・専門的な内容になると、用語の定義はより厳密になる。たとえば、日本語でもよく使われる「ハザード (hazard)」は、機械安全に関する国際規格では「危険の原因」のことだが、鉄道信号に関する欧州の規格では「事故を起こす恐れのある条件」のことだ。技術分野によって同じ用語でも意味が異なるため、国際規格の内容をきちんと理解しておかないと大きな誤解を生じかねない（第3章1-9）。

以上のように、国際規格における用語の定義や使われ方を知っておかないと、海外の鉄道ビジネスでは、大きな失敗につながりかねない。また、本章2-2で述べたように、用語を適切に使えないことで、専門家としての資質を疑われる恐れもないとは言えない。したがって、海外鉄道ビジネスに関わる上で、関連分野の国際規格の内容を知っておくことは重要である。

また、国際規格を読むことは、国際的に通用する用語や文章の英語表現を覚えることにつながるため、鉄道ビジネス英語を習得する上で非常に有益である。国際規格は、まさに生きた英語のリーディング教材として活用できるのである。